

# 東京海上日動火災保険株式会社



## 働き方変革、クラウド活用に適合した セキュア拠点インフラ構築を実現



### 製品 & サービス

- Cisco vEdge ルータ
- Cisco vEdge Cloud
- Cisco Aironet 2800 シリーズ
- Cisco 8500 シリーズ  
ワイヤレス コントローラ (WLC)
- Cisco Prime Infrastructure (PI)
- Cisco Mobility Services Engine (MSE)
- Cisco Identity Services Engine (ISE)
- Cisco Catalyst 3850 シリーズ スイッチ
- Cisco Catalyst 2960-X シリーズ  
スイッチ (PoE)
- シスコ アドバンスト サービス  
(AS/PMO、Network、Mobility、Security)

### 課題

- テレワーク制度拡大に伴う多様な働き方への対応
- ファットアプリケーションやクラウド利用などデジタル化への対応
- 金融機関としてのセキュリティ対策高度化

### ソリューション

- 本部および拠点オフィスへの無線 LAN および SD-WAN 導入
- Cisco AS によるプロジェクト管理から要件定義、設計、構築支援

### 結果～今後

- 本部拠点の無線 LAN および SD-WAN 構築完了
- 継続して全拠点への展開
- クラウド活用、Cisco ACI による SDN 化の推進

東京海上日動火災保険（以下、東京海上日動）は日本初の保険会社として、140年以上の歴史を持つ国内最大手企業です。同社は全社員を対象としたテレワーク推進を拡充させるなど、積極的な働き方変革の取り組みを行っており、2018年10月にはシスコ無線 LAN と SD-WAN ソリューションを活用したセキュア拠点インフラプロジェクトを実行。働き方変革とデジタル化の加速を支える、新たなネットワーク基盤を構築しました。

シスコの無線 LAN と SD-WAN を活用することで、  
課支社ネットワークの変革を行いました。

——東京海上日動システムズ株式会社 オープンサービス本部 シニアアーキテクト 畠山 亮氏

東京海上日動は火災、海上、傷害、自動車など多様な損害保険商品を提供。2018年度からスタートした中期経営計画では「To Be a Good Company 2020 ～お客様の期待を超える『クオリティ No.1 への挑戦』～」をコンセプトに掲げ、「お客様に“あんしん”をお届けし、選ばれ、成長し続ける会社」を目指しています。同社は2018年10月よりオフィス外で業務可能なテレワーク制度の対象者を全社員に拡大するなど、働き方変革にも積極的に取り組んでおり、今回、働き方変革とクラウドやファットアプリケーションの活用など、デジタルトランスフォーメーションに対応可能な、新しいコンセプトの課支社ネットワークの整備を決断。セキュア拠点インフラプロジェクトとして、シスコ無線 LAN と SD-WAN ソリューションを導入しました。

### 課題

本プロジェクトを統括した、東京海上日動システムズ シニアアーキテクトの畠山亮氏は、検討の背景を次のように話します。

「東京海上日動では10年近く前から有線 LAN によるデスクトップ型のシンクライアント端末を業務利用してきました。しかし、働き方変革の中で希望された新しい端末要件は、「ノート PC」「無線 LAN」「端末から直接インターネット接続あり」と、これまでの端末要件とはまったく違うものでした。今のシンクライアントに特化したネットワークでは、こういった要件に対し十分に 대응することができない、と強い危機感を感じ、新たなネットワークを検討しました。SD-WAN はその解決策の1つとして意識していました。」



東京海上日動システムズ株式会社  
オープンサービス本部 オープンサービス管理部  
シニアアーキテクト

畠山 亮 様



東京海上日動システムズ株式会社  
オープンサービス本部 オープンサービス管理部  
デザイナー

石井 美沙子 様



三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社  
金融事業本部 金融第二事業部  
システム第一部 第二課

野沢 大地 様



三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社  
金融事業本部 金融第二事業部  
システム第一部 第二課

岩崎 俊 様

SD-WAN は MPLS、インターネット、4G LTE などあらゆるタイプの接続で WAN を展開でき、ユーザ エクスペリエンスと WAN 展開の俊敏性を大きく向上するソリューションです。畠山氏は数年前から、セキュリティやユーザビリティの向上を兼ね備えた新しいネットワークが必要になる時代を見据えていました。そのため 2017 年夏に米国に渡り、シスコを含めた数社の SD-WAN ソリューションを視察。その後、東京海上日動では 2018 年に全社的な働き方変革が発表され、課支社ネットワークの変革という観点のもと、SD-WAN 導入と無線 LAN の導入を同時進行する「セキュア拠点インフラ プロジェクト」が発足されました。

「新しい課支社ネットワークで実現したかったことの 1 つが、業務要件ごとに通信トラフィックが分離され、重要業務の安定稼働を確実に担保できるネットワークでした。SD-WAN を活用することで、それが素早く効率的に実現可能である、と感じていました」(畠山氏)

## 課支社ネットワークの変革のため SD-WAN と無線 LAN の導入が同時進行となりました

### ソリューション

#### シスコ ソリューション選定の決め手はセキュリティ

東京海上日動システムズと構築および運用保守を長年務める三菱電機インフォメーションシステムズ (以下、MDIS) は比較検討の末、2018 年 3 月にシスコの採用を決定。畠山氏はその理由について次のように話します。

「最大の選定要因はセキュリティ対策でした。これから作る新たなインフラは、十二分なセキュリティ対策があらかじめ考慮、実装されていることが大前提です。シスコは自社でセキュリティソリューションを開発、サービス展開しており、その知見の広さと深さは他社と大きく違いました。実際の検討段階でも、金融機関に必要なセキュリティ対応要件を能動的に示してくれており、シスコを選ぶ大きなポイントになったと思います。」

#### シスコ AS との二人三脚で短納期を実現

加えて、シスコ アドバンスド サービス (以下、AS) の存在も大きかったと畠山氏は話します。「本件は規模も大きく、安定性やセキュリティなど業界特有の高い要件レベルに加えて、なによりも短納期が前提でした。一方で、前年度実施した Cisco TelePresence ビデオ会議刷新プロジェクトの中で、AS の品質と進行管理能力を高く評価していましたので、AS が協力してくれればうまくいこう、という確信がありました。」

以降、AS は東京海上日動システムズ、MDIS と週 1 ～ 2 回の定例会を実施。ビデオ会議も活用し、各カテゴリのエキスパートが集結してプロジェクトを推進していきました。サービス 目標は 2018 年 10 月 1 日となり、契約手続きなどを経た構築期間は実質半年弱となり、本プロジェクトの規模としては異例の短納期で時間との戦いでしたが、メンバー丸となって驚異的なスピードで進化したとのこと。

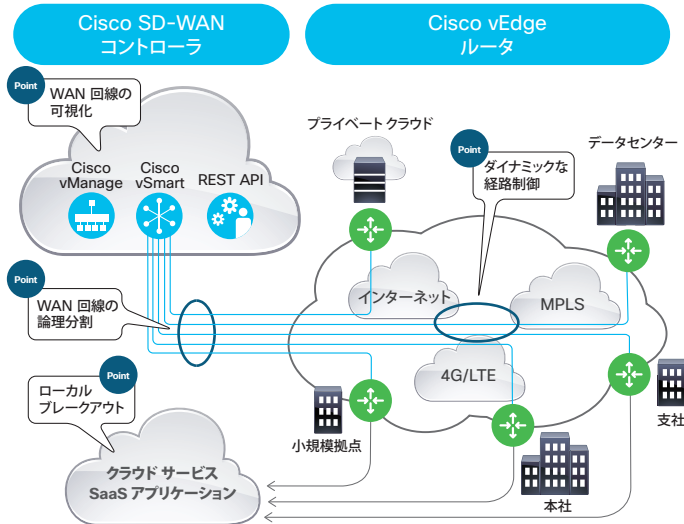
畠山氏は「プロジェクト メンバー全員が能動的に課題を持ち寄り、即決して実行する未来志向のプロジェクトだった」と振り返ります。

社内のタスクや進捗管理、クラウド連携を担当した東京海上日動システムズ 石井美沙子氏は「短納期を実現するため、通常とは違う速度特化型のマネジメント手法を考えました。現場には負担がかかる手法だったと思いますが、結果的に成功した 1 つの要素だったと思います。」と話します。

主に無線 LAN の構築を担当した MDIS 岩崎俊氏は「全員がどうすれば工期を短縮できるのか、互いにアイデアを出し合って進めました。」と、インフラ基盤構築を担当した MDIS 野沢大地氏は「会社の垣根を越えてエキスパートが集結して、トライ アンド エラーのサイクルを極限まで速めて遂行したプロジェクトでした。」と、それぞれ語りました。

## Cisco SD-WAN とは

Cisco SD-WAN は、MPLS、インターネット、4G LTE など、あらゆるタイプの接続で WAN を展開でき、ユーザ エクスペリエンスと WAN 展開の俊敏性を大きく向上させます。また、ユーザとアプリケーションを安全に接続し、エッジからクラウドまですべてのデータを保護することができます。



**安定したアプリケーション エクスペリエンス**  
リアルタイムの分析、可視性、および制御により、クラウドやオンプレミス アプリケーションを最適化して、ユーザの生産性を向上させます。



**エンタープライズ規模での展開もシンプル**  
集中型のクラウド管理により、SD-WAN の展開が簡素化され、数千サイトにまたがったポリシー管理が可能になります。



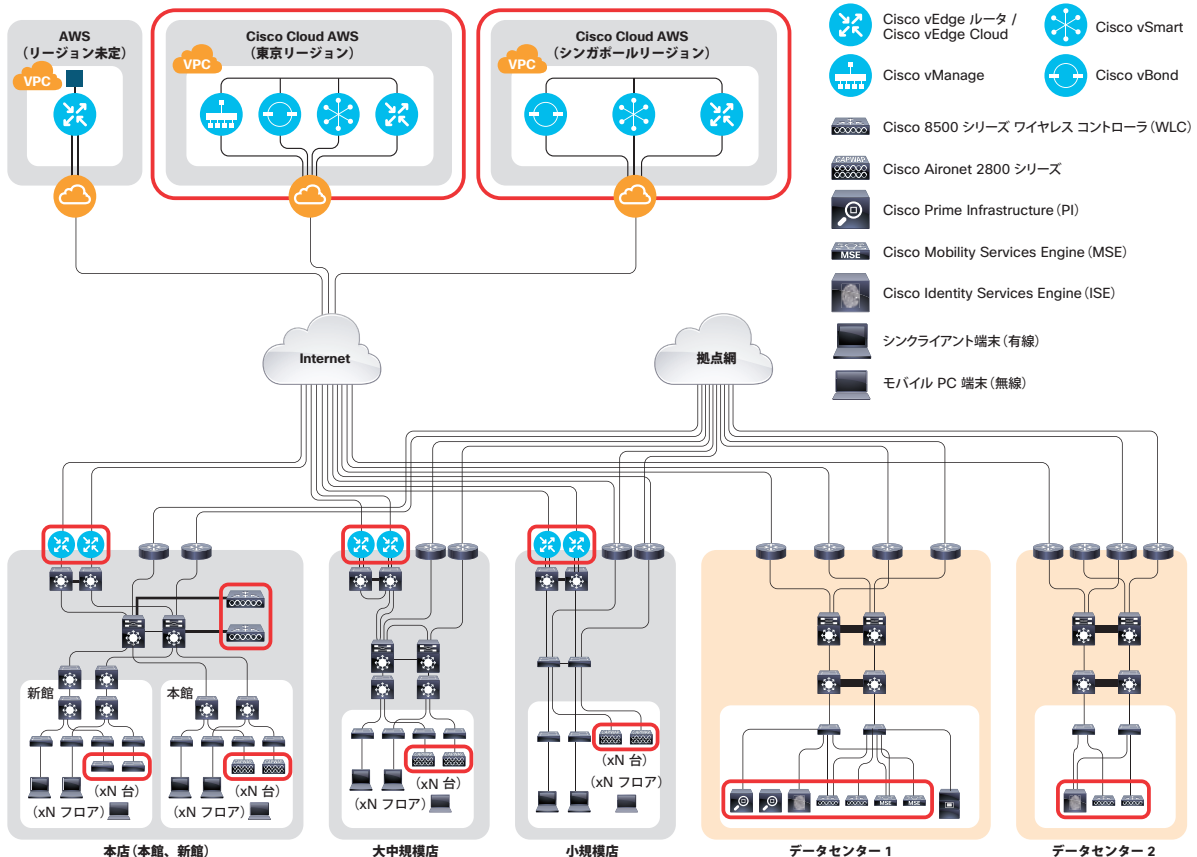
**適切な場所に適切なセキュリティ**  
優れた脅威インテリジェンスを駆使して、組み込みあるいはクラウド セキュリティを迅速に展開し、ユーザ、デバイス、アプリケーションを保護します。



**柔軟性のあるネットワーク**  
あらゆるユーザ、アプリケーション、クラウドを柔軟性を維持しながら高度なルーティングで制御できます。

## 東京海上日動 ネットワーク概要

今回の構築範囲





## 東京海上日動 火災保険株式会社



**創業** 1879年(明治12年)8月  
**資本金** 1,019億円  
**取締役社長** 北沢利文  
**本店所在地** 東京都千代田区丸の内  
一丁目2番1号  
03-3212-6211(大代表)  
**URL** <https://www.tokiomarine-nichido.co.jp>

当社は、お客様の信頼をあらゆる事業活動の原点におき、お客様への「安心と安全」の提供を通じて、豊かで快適な社会生活と経済の発展に貢献することを経営理念として、その実現に向け日々取り組んでおります。昨今、お客様ニーズも多様化し、新たなリスクも顕在化してきています。保険は、万一の事故や災害に備えて、多くの人がお互いに助け合うという、人類が生み出した素晴らしい知恵・仕組みです。私たちは「何としてもお客様をお守りしたい」という強い使命感の下、「お客様に“あんしん”をお届けし、選ばれ、成長し続ける会社」を長期ビジョンとして掲げ、「To Be a Good Company 2020 ～クオリティNo.1への挑戦～」と題した中期経営計画を2018年度より進めています。お客様の“いざ”というときにしっかりとお役に立てるよう、損害サービスのクオリティ向上にも取り組み、お客様や地域社会にとってなくてはならない良い会社“Good Company”を目指して努力をしております。

## 結果～今後

予定通り10月1日に本部拠点のサービスインが実現。シンクライアントとCisco Webexなど、アプリケーションごとに通信が分けられた、無線LANとSD-WANによるセキュア拠点インフラの運用が開始されました。畠山氏は構築後の端末からのアップデートに起因する大量ダウンロードが発生した際に、その効果を実感したと語ります。

「SD-WANによるトラフィックの分離は非常に効果的です。アップデート時にも重要業務の通信にまったく影響がなく、後日ログを見てアップデートが実施されたことに気がついた程でした。」

同社では今後、数年かけて全拠点に順次、展開していく計画です。畠山氏は今後のシスコへの期待について、次のように話します。

「プログラマブル化が進む近年のネットワークは、クラウド連携や自動化など可能性が広がっていると思います。しかし一方で、境界線があいまいになってきている領域が増えており、ビジネス要件を達成するために必要なエンジニアのスキルもより高度になっていると感じています。シスコにはそういった幅広い知見をもったエンジニアの育成も含め、グローバルでの実績、知見を活かした協業を期待しています。」

## その他の詳細情報

Cisco SD-WANの詳細は、[www.cisco.com/jp/go/sdwan](http://www.cisco.com/jp/go/sdwan)を参照してください。

©2019 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco, Cisco Systems, および Cisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。

本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1502R)

この資料の記載内容は2019年2月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー  
<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先